



りよくゆういぬ
《緑釉狗》後漢時代(25-220年)

この緑釉狗は、今から1800年ほど前に中国で作られました。
鉛なまりを多く含む釉薬ゆうやくをかけて焼き上げたもので、緑色に発色することが特徴です。
後漢時代(25-220年)に中国のお墓に埋葬されたもので、家で飼っていた番犬をかたどったものであろうと思われます。

体は、ずんぐりとしていて、四本足でしっかりと立ち、前を向いています。
口を少し開けていて牙が見えています。
どんな声で鳴いているのでしょうか？
前には飼い主さんがいるのかな？
しっぽはかわいく横に巻き込んでいます。首輪と胴輪が首元でつながり、そこにリードを結ぶ環わがあります。これから散歩に行くのかな？

みんなはどんなわんちゃんをペット(番犬)にしたいかな？
さあ、自由に色を付けてみましょう。